

“ Every rejection is a redirection. ”



佐々木 葵彩

市立札幌開成中等教育学校
(MYP/DP)

IBで広がる未来

IB Alumni Pathways

文部科学省IB教育推進コンソーシアム事務局

2025/10/17 発行

進学先

メルボルン大学

Bachelor of Science 神経科学専攻

入試方式

一般入試 (IB Direct Entry)

この大学を選んだ理由

当時は、ダンサーのケガの治療や予防に興味があったので、この分野の研究で世界的に有名なバレエ団の本拠地であることからメルボルンに惹かれ、解剖学を専攻できることからメルボルン大学を選びました！また、国が政治・社会的に安定しているかや大学の学習環境も考慮しました。

ADMISSION PROCESS 受験プロセス



高3/DP2 春～夏

英語スコア & 学科条件準備

- TOEFL iBT目標スコア (81点～) 獲得
- Bachelor of Science必須科目 (HL/SLの数学・理科) の確認



高3/DP2 秋 (10～11月)

IB最終試験 & 奨学金応募

- 11月：Nov Final Exam (IB最終試験) 受験
- 日本の給付型奨学金 (返済不要) への応募・面接



高3/DP2 冬 (1月～3月)

最終DPスコア確定 & 出願

- 1月：IB Final Official Results 発行 (目標スコア31点以上達成)
- メルボルン大学へ直接出願



春 (4月～5月)

合格オファー獲得

- 正式合格通知の受領
- COE (入学許可書) 受領・ビザ申請手配



夏 (7月)

大学入学

- 渡航・オリエンテーション参加
- Bachelor of Science スタート

※上記は作成時点のものです。最新の入試要項や出願条件につきましては、必ず各大学の公式Webサイト等でご確認ください。



受験で努力したこと

目標スコアより余裕を持ったIBとTOEFLのスコアを取得するために、それぞれ過去問での問題演習を重ねました。また、入寮のための選考もあったため、進学先がいかに関目標の実現に重要かやその環境で自分がどのように周りに良い価値を与えられるかをエッセイと面接を通じて伝えられるように準備しました。



大学生活で最も発揮していた IBの学習者像 (Learner Profile) とは？

「バランスのとれた人」

理由：週に最低40時間の勉強に加えて、学内外でのインターンやボランティアなど様々な活動に関わりましたが、どれも蔑ろにせず成果を出せたのは、時間や体調、タスクをバランスよく管理できたからだと思うからです。



現在のキャリア・今後の目標

現在は民間企業で医療機器の国際展開に関わっています。まだ学びたいことばかりですが、大学で積んだライフサイエンス・医療分野での経験や知識を活かし、世界の健康に貢献したいと考えています。また人々の声を聴き、現場のニーズに合った価値を確実に社会に提供できるビジネスに関わりたいです。



大学で学んだこと

大学では神経科学を専攻し、主に脳の構造や機能、神経の働きについて学びました。Bachelor of Scienceは履修する科目の自由度が高く、他にも免疫学や遺伝学、薬理学、心理学、健康地理学、バイオテクノロジーなども選択し、幅広く学びました。授業では先住民の方々ならではの健康問題や多国籍国家ならではの人種による薬剤の効果の違い等を学ぶ機会が多く、科学における数字上の「最適解」が必ずしも全ての人に当てはまるわけではないという現実も学びました。自分で自分の学びをデザインでき、研究現場だけではなく、臨床の視点からの学びも得られる点で将来ヘルスケア分野を志す方におすすめのコースです。



IBで学んだスキルが 大学の学びで生かされた場面

私はIBDPの2年間パンデミックに大きな影響を受け様々な予定が変更・中止になりました。その中で、「チャンスは自分で作る」という信念を持ち、新たな学び・交流の場作りや活動を自ら行い、IAやEE, CASを進めました。この学びを経て、留学生が何かと不利になりがちなオーストラリアでも、チャンスを自ら作っていくことができました。例えば、研究のインターン先を探していた際、応募をしても現地生から採用されていき、届くのは不採用通知ばかりでしたが、見方を変え、最も興味があったラボの研究主任に直接連絡し、自身の経験や熱意を伝えた結果、インターンとしての採用を獲得できました！